



《クリスマスメッセージ》

光 あ れ

「神は希望のうちに生きることが
できるように私たちを創造された」



主教 アンデレ 大畑 喜道

神がこの世界を創造され秩序だてられた時、すでにそこには神の霊が漂っていたと伝えられています。闇が面に入り、絶望であるかのように思えていた。しかし神の霊は水の面を動いていた。それは神が支配されていたことを示しています。しかし神は私たちが、それだけだと闇の世界の支配に押しつぶされてしまうだろうと考え、真つ先に光をお与えくださいました。光は希望であり喜びです。この世界は真つ先に神のみに支配されていて、希望に溢れていた。闇が支配するのではなく秩序を与え、希望を与える神の言葉、そしてそれを明確に示す光が与えられていたと創世記で示されます。

私たちは昼には太陽が出

て、その光で明るくなり、闇の夜は太陽が隠れて暗くなると考えます。そうすると太陽の存在が光と思わなければなりません。ところが太陽が造られるのは第四の日です。「光あれ」と神はみ言葉を与えますが、その光は太陽を源にしているのではありません。混沌、深淵の状況である中に神の霊が水の面を動いていた。希望の源が神のみ言葉にあることを示すために、それが明確にされていくために、神は「光あれ」と言われたのです。私たちにとっての本当の光とは何でしょうか。

最後に神は土の塵で人を形づくり、その鼻に命の息を吹



右は武藤謙一九州教区新主教 (12/1 按手式にて)

き入れられます。人はこうして生きる者になります。人間は土の形に神様の「命の息」が吹き込まれて生きる者となったのです。人間が人間であるために必要なことは神の霊でした。最初から存在していた神の霊によって、私たちは混沌と闇の世界にあったとしても、力強く立ち上がる事ができるのです。「命の息」によって人が立ち上がる事ができるようになったこ

とは、預言者エゼキエルの幻にも示されています。枯れた骨に神の命の息が吹きまくと人間として立ち上がるのです。新約の世界でも、力を無くしているお弟子達が神の息

によって立ち上がったことを伝えていきます。

神様は最初に太陽を造ったのではなく、希望が明確にされるために、どんな時にも立ち上がる力が与えられていることを示すために「光あれ」との神のみ言葉をまず与えました。しかし人間の浅はかな知恵がこの素晴らしい神の祝福の現実を見えなくさせてしまっています。それに対抗するように神はいつの時代でも「光あれ」と言われ続け、この世界を祝福へと導いておられるのです。そして私たちに大切な使命を与えています。私たちにとって光をいただく人生は、年を重ねても、どんなことがあっても変わらずに喜びです。教会は光をいただき、世の人々に救いの喜びを証して行く使命が与えられているのです。そのしるしとしてイエスはこの世に降られたのです。光り輝く救いが与えられた。それに応答していく者となりましょう。

クリスマスおめでとう。

イギリスのクリスマス

ジョンソン 友紀

日本語英国教会Lay Minister

最近、イエスのご生誕を描いたクリスマスカードが少なくなってきた、またクリスマスの本来の意味をあまり考えない人々が多くなってきた。そういった中、クリスマス



スに向かって、それぞれの教会では、ご降誕の大切な意味を人々に伝えようとしています。

ドルと、たいへん貴重なメッセージを含んだものです。私達の町のショッピングセンターでは、毎年タウンセンターのチャレンジャーがドロップインを設けています。厳しい経済状況の中、商店に働く人々の個々の声に耳を傾ける機会を提供しています。「世の光」がまたに届くように。

東アフリカ・タンザニアのクリスマス

ティト・ハウレ（信徒リーダー）

ジョンズ・カレシユ（教会委員）

Crib Service とは、生誕の物語をたどりながら、ネイティブティを祝福します。教会によって異なったサイズや様々な素材があり、興味深いものが多々あります。クリスマスティングル礼拝は、献金がThe Children's Societyの働きに捧げられます。参加者全員に渡されるものは、神の創造された世界を示すオレンジ、四季を示す4本の爪楊枝、地上の実りを示す果実や菓子、オレンジを囲むリボンは神の愛、そして「この世の光であるイエス」を示すキャン

私たちの聖マーガレット教会は、アフリカ最高峰のキリマンジャロ山のふもとにあるモシ市にあります。この国タンザニアには多様な文化と多くの宗教があります。

クリスマスシーズンは12月の初めの降臨節から始まり、クリスマスイブに行なうキリストの誕生を祝う聖劇の練習を続けます。クリスマスイブには聖餐式がありますが、ある教会では聖餐式は夜中続けてクリスマスの当日に至ります。この時は電灯を消してローソクをつけ、キリストの生誕の夜を再現します。

クリスマスは家族が集まる時です。ある家族は1000キロも離れた所からやってきます。またある家族は前に住んでいた村に新しく生まれた幼子を含めて、クリスマスは家族が集まる時です。

メッセージを伝える歌を歌い、説教もキリスト教伝道を中心としたものが話されます。この時、子どもたちの洗礼式も行なわれるのが常です。



クリスマスは家族が集まる時です。ある家族は1000キロも離れた所からやってきます。またある家族は前に住んでいた村に新しく生まれた幼子を含めて、クリスマスは家族が集まる時です。

フィリピン・セブ島のクリスマス

河島 ローズ

フィリピンではクリスマスは非常に愛され、最も楽しみにされている祝日です。祝い方はフィリピン人独特で、家族や愛する人達、信仰がその中心にあります。家族や親戚、友人との楽しい集いの時なのです。フィリピン人はまた、世界で最も長いクリスマスシーズンを経過することで知られています。

9月に始まり翌年1月の顕現日まで続きます。伝統的には、クリスマスは最初のSimbang Gabi(夜明け前のミサ)の12月16日に始まります。これは特別な恩寵を戴くための9日間連続のミサで、このミサが完了すると、お捧げした者

世界のクリスマス便り

の願いを神様はきつとかなえてくださると信じられています。

12月24日のBisperas ng Pasko(クリスマス・イブ)は、夜10時から真夜中の12時の間の深夜ミサで執り行われます。家族全員でこのミサに出席するのが一般的です。ミサから帰った後、家族は伝統的なクリスマス・イブ料理をいただきます。queso de bola(チーズ)、tsokolate(チョコレート)、hamon(ハム)、lechon(豚の丸焼き)、adobo(豚や鶏肉の煮込み)、morcon(チーズや野菜の肉巻)、pancit(焼きそば)等です。これは家族全員でうけたお恵みに感謝するひと時です。それはまた、親戚、友人や近隣の人々が「クリスマスおめでとう」のお祝いをするために訪問し合うオープンハウスでもあります。この祝祭は12月25日まで続きます。

クリスマスは、家族や愛する人達と、分かち合い、与え合い、楽しみ、友情を深める時間なのです。

韓国のクリスマス風景

司祭 柳時京

私は、小学校6年生の時から教会に熱心に出席し始めた。正直まだ信仰とは言いがたい、同年代や先輩・後輩など、学生が集まりに興味があつたのである。特に同じ学年には女子学生も多

かった(笑)。それでも柄だけはクリスチャンだった。イースターにはゆで卵に絵を画いて大人に売り(ほぼ押売



り)、その売り上げでソウル郊外にある孤児院を訪問したりした。

なんとと言っても、やはり学生時代の教会活動の白眉はクリスマスだ!数ヶ月前からページエントの準備が開始され、一方では、クリスマスパーティー企画が始まる。その中で自分にとって鮮烈な印象を残したひとつの出来事に韓国では好消息と呼ぶキャロリングがある。中学2年生のことだ。クリス

マスイブの夕の礼拝を終えて、深夜のミサを迎えるまでの時間を利用して、教会の周りに2〜3人ずつペアになってクリスマスの挨拶や贈り物を分かち合うために出かけた時のことだ。私は市役所前の大通りにあるバス停担当になって、先輩たちについて行った。停車するバスのドライバさんやアンネヤン(案内嬢、当時はバスごとに車掌とあって若いお姉さんたちが1人づついた)にお菓子和みかん、飴などの詰め合わせとクリスマスカード入りの贈り物袋を手渡した。その時、その人たちの凍りついた冷たい手と、あまりにも対照的に温かかった感謝の言葉と眼差し、今でも鮮明な記憶として残っているのだ。みんな興じた聖夜に楽しむ時間なのに働く人々がいるという事実に初めて気づかされる瞬間だった。思えば、早く手元の袋を配り終え、教会に戻ってパーティーを楽しむたい幼い心に、ちよつと天使が訪ねてきた時だった。

ハワイのクリスマス

司祭 上田亜樹子

クリスマスと言えばページエント、2つの想い出をご紹介したい。まずはホノルルにある聖マーク教会。比較的小さい(主日礼拝出席は50人位)のに、日曜学校教師はユース(中高校生。

連れてきて親戚や近所の人に紹介します。この時期は大変賑やかで、食事や飲み物がたくさんふるまわれ、歓待が盛んです。

キリスト者にとっては、クリスマスは救いを受けるよい知らせの季節です。それはまた私たちが愛する人びとと会うことができる時なのです。

イエスキリストが私たちの救い主であり、私たちの生活の道しるべであるという知らせを皆様にお伝えください。(聖マーガレット教会スワヒリ語会衆より)

大学生など18歳以上は「大人」とみなされる)を含めて15名が毎週奉仕する充実ぶり。ところで劇中の「3人の博士」は一般信徒にお願いしようということに教師会で決定した結果、92歳のジョセフ、30代半ばの事故で「上半身しか稼働しない」(本人談)大学教授アイオナ、80を過ぎてから失明されたヨネオの3人に決まり。中央通路をゆったりと歩くジョセフ、その後を車椅子でしずしずと続くアイオナ、そしてヨネオのエスコートとして一緒に歩いた私にも、クリスマスを只「楽しいもの」としてキラキラな礼拝を見に来た人々でさえ一瞬、「ひよつとしてクリスマスとは、現実を生きていることなのかも」と感じ始めている空気が伝わってきた。もうひとつは、海辺の聖ジョン教会のこと。ここでもユースは大活躍。彼等がクリスマスの物語を現代風に「翻訳」した結果、10代で妊娠したマリアと、彼女とつきあい始めたものの父親でもない彼氏が、途方にくれつつも、マリアを見捨てることなく、ふたりに町を彷徨った挙げ句、ショッピングモールの駐車場で出産の時を迎える、という劇を書き上げた。クリスマスは、私たちの内にある痛みを亡きものにしては、本当の喜びは見えない。なる、という性質のものかもしれない。

司祭と語ろう（特別編）

主教 竹田 真

今回は「司祭と語ろう」のクリスマス号特別企画として、竹田真主教の中央区佃にあるお宅を訪ねてお話を伺った。聞き手は特別に神崎雄二司祭にお願いし、広報委員長の渡辺康弘と2人でおこなった。竹田主教らしい言葉遣いと示唆に富んだ表現に溢れ、楽しいひと時となった。

竹田 今日、何をしゃべってもいいのかい。



渡辺 はい自由に語り合っていた দিয়ে、載せてまずいところは編集いたします。（笑）
神崎 僕は、いつも主教さんの説教には、お決まりの文句ではない何か心に残るものがあり好感をもっていました。

渡辺 説教をする上で、何か心がけていたことかはありましたか。

竹田 そんなものはないよ。昔からあまり準備をしないで、電車の中で何をしゃべろうかと考えていた。（笑）だから、説教集を出して欲しいと言われているが、書いたものは何も残っていない。

神崎 説教の原稿は作らないんですか。

竹田 自分の書いたものを読むのが嫌だね。でも榛名では月に一度の説教を秋葉司祭が録音して文章にしてくれる。でも、それを読むのが、また嫌なんだな。（笑）

神崎 僕は原稿を書きますが、それは同じ説教をしないようにするためです。あと、僕たちの頃は、どうにもならない奴が神学院行つて、何とかみんなに支えられて卒業できた。優秀でない者が選ばれて用いられた。そんな時代の校長で大変だったと思います。

竹田 そう、食事中に殴り合いの喧嘩がはじまって、ここですと迷惑だから、外に出

てとことんやれ、牧師になるのは命がけだ、ということもあったね。（笑）

渡辺 今は比較的真面目な人が神学院に行きますが、昔は少しはみ出した人が神学院に行っていたという印象があります。（笑）

竹田 特に大学紛争の頃は、学生は何かと闘うという気概を持っていたからね。今は神学生も教会も大人しくなった。その辺がちよつと不満だな。

神崎 でも、僕等の頃は苦しかった。一つ覚えているのは、校長の所に行つて、思いのたけをガーツと言ったら、たった一言「お前がやればいいじゃないか」と言われた。

渡辺 校長として何の細かいアドバイスも無いですか。

神崎 そんなものはないよ。

渡辺 その時の校長の一言が、今の神崎司祭の自分のしたいことは、多少強引になつてもやるという考えに繋がっているですね。（笑）

神崎 そうよく人に言われますよ、お前が動けば動くほど人に迷惑がかかると。（笑）

渡辺 でもその熱意に人は動かされるんですよ。

竹田 今は教会も真面目になりすぎている気がするね。

渡辺 その辺が教会が伸び悩んでいる原因なんでしょうか。

竹田 そうかもしれないね。この前、宣教協議会をしたのかな、人数が少ないことも問題だけど、そんな時こそ、もつと氣を楽にして取り組んだらいいと思うけど。

渡辺 人数はともかく、教会に元氣があればいいと思います。高齢化というのも理由なんでしょうか。

竹田 いや、今は榛名にいるけれど、老人は皆、元氣だよ。渡辺 むしろ若い人の方が元氣がないと…。

竹田 真面目にやりすぎて、面白くないんだろうな。真面目すぎても靈性は無くなるよ。

渡辺 大畑主教も靈性ということをよく言いますが、主教にとつて靈性とはなんでしょうか。

竹田 あれば元氣でやれという促しだよ。礼拝というのはみんなでやる騒ぎだから。あとユーモアも必要だよ。

竹田 そういう学びがあったね。内向きになるとそういう氣付きも無くなってしまう。

あと韓国もよかったね。今は発展したけど、元氣がある。

神崎 今、韓国のGFSが一生懸命しているのは、脱北した人たち、多くは女性ですが、その自立のために喫茶店を開いている。今度、2号店もできたんですよ。

渡辺 今の神学生に望むこととかはありますか。

竹田 昔から言っているんだけど、神学校が防衛神学校になつてしまふ危険がある。自分の立場を守る神学、ドグマを構築する場所になつてしまふんだな。すると答えも同じになる。人間の問題は複雑で色んな答えがあるのに。弁解をする学問、ディフェンシブなものになつてしまふ。

神崎 僕はそんなドグマを構築するなんていうレベルじゃなかった。神学院の3年間は自分の中に言いようもない闘いと混乱があつて、校長はそれをじつと見て見ぬふりをしながら見守ってくれた。それ

渡辺 なるほど、元氣でいうのは「心を楽しく輝かせる」ことで、そのためにする「騒ぎ」というのは「祭り」のことですよ。

竹田 そう、僕は「祭り」という要素を大切にしたいと、ずっと言ってきた。

神崎 そこから力をいただいで、教会でも新しいことをするのは老人が多いです。

竹田 確かに、模範的な信徒が老人の中にはいるよ。

神崎 真面目ではない模範的な信徒ですね。

竹田 そう、特に榛名では僕のことを主教なんて呼ぶ人はいないよ。みんなマコちゃんと呼んでくれる。ある修女さんはもう百才を過ぎていて身動きは余りできなけれど、いけ、と言ふことは一、番元



が校長の愛情だった。

塚田先生には、はっきりと言われましたよ「君は勉強する氣がないのなら、もう郷里に帰りたまえ。君の年頃の青年はみんな働いているんだから」と。でも後に、その彼から立教に來ないかと言われた。渡辺 もう一つぜひお聞きしたいのは、主教さんの思う牧師にとつて大切なこととは何でしょうか。

竹田 そうだねえ、基本的には人間を愛する氣持ち。そして神さまの子どもであるということをもつて生活することかな。ただ、それは牧師だけでなく信徒にも必要なことだけだね。

渡辺 そろそろお時間ですが、最後に大畑主教にメッセージをお願いします。

竹田 それは困ったな。まあ体に氣をつけて元氣でやってくださいということかな。あと、あまり苦しまず、氣樂にやってください（笑）、と。渡辺 わかりました。主教様、神崎先生、今日はどうも有り難うございました。

氣がいい。しかも靈性があつて、あの人と話すのは楽しみだよ。また元は看護婦で認知症の方もいるけど、普段の行動の中に看護の精神を持つていて、とても靈性を感じる。神崎 認知症であつても靈性があるというのは素晴らしいですね。
竹田 信仰に生きた人は認知症になつても、靈性だけは残るんだな。
神崎 そういう流れの中で、復活というのは、どう繋がってきますか。僕は、死んでからではなく、生きた流れの中で捉えたと思つているんですが。
竹田 難しいことを聞くね。（笑）まあ復活は、人がキリストによつて新しく生かされたということだからね。
渡辺 ある意味、老人の方は第二というか、新しい人生を生きているし、純粹に信仰と向き合う時が与えられている氣がします。
竹田 そういう人は榛名には沢山いるよ。死んでも生きてるんだな。
神崎 逆に、若くても死んで

いるような人もいますね。

渡辺 教会が、そういう人たちにどうやつて命を与えることが出来るでしょうか。

竹田 やはり、死んでも生きているという人を教会の中心に置くことだな。みんなケアの対象にしてしまっている。

渡辺 その人の姿を見て生かされるということですか。

神崎 だから主教さんの言う「いと小さき者」というのは、遠くにいて助ける存在ではなく、私たちに命を与えてくれる存在なんだよ。

あと、僕は国際的な関わりが大切だと思いますが。

竹田 やはり内向きになつているのかな。信仰も内向きになつている気がする。

神崎 校長の時、フィリピンかどこかに行かれて、帰つてきたら僕たちに「俺の神学教育にはアジアという視点が抜けていた」と言い放つて、学生全員をフィリピンに連れて行つた。

竹田 あの時はお金が無くて大変だったけど。でもアジアとの交流は必要だと思つた。



遊んでるんだよ。

神崎 言葉が通じなくて、なかなか親しくなれず一人でいた時、子どもたちがビールの王冠を潰して遊んでいて、それを淋しそうにしている僕にくれるんだよ。救われた氣持ちになつた。

「司祭のこの一冊」
『小さくされた人々の

ための福音』

本田哲郎訳、新世社2001年刊
司祭 前田良彦

本田哲郎神父の訳されたこの「小さくされた人々のための福音」を改めて紹介するまではないのでは？と思いつつまだ触れたことのない方々にご紹介したいと思います。フランススコ会の管区長であった本田神父が全国に散らばっているブラザーを訪問するとい



いうことで、山谷や釜ヶ崎の人々と出会うなかで「通じない聖書」の言葉にシヨックを受けたのです。何とかこの人々に聖書の思いを届けたいと思い翻訳をされたのが、この書です。「この苦勞をなめつくしてきたせんばい、仲間の労働者に『福音』のすごさがピンとくる聖書があれば…」（5頁）という思いがこの聖書の

出発点です。もし購入して読んでみたいと思われたら、聖書本文からではなく、はしがき、新しい訳語、言い回しの

試みと、付録そしてあとがきからお読みになるといいでしょう。

聖書の中でキーワードとなる言葉を新しい訳語で用いています。洗礼、悔い改める、罪、愛、という大事な言葉が本来の意味と日本語に翻訳したらの言葉が良いのか記されています。全部をこのスペースではお伝えすることは出来ませんが、一つだけご紹介したいと思います。

コリントの第1の手紙の13章の愛の賛歌と呼ばれる一部分をお読みください。

「人を大切にすることは、忍耐よく相手をする。人を大切にすることは、思いやりをもつて接すること。人を大切にすることは、ねたまず、うぬぼれず、思い上がりなく、めざわりなことをせず、自分の利を求めず、いらだたず、人の意地悪を根に持たず、人を不正に抑圧して喜ばず、ともに真実を喜ぶこと。」（4、5節）
目からウロコです。どうぞ手にして見てください。

ようこそ八王子復活教会へ



八王子復活教会は、多摩グループ5教会の一つで、本年4月に学校法人化され、11月10日に100周年を迎えた幼稚園と今井蒸治司祭が八王子ミッシヨナーをされている鑑水集会所がある、教区事務所から一番遠くに位置する教会です。

教会の創立は1908年、元立教小学校校長・伊藤高清氏の厳父伊藤堅逸司祭の司牧（1921、67年）を経て2008年に創立



100周年を迎えました。その間、教会は竹田真師父、五十嵐正司師父など主教になられたお二方をはじめ多くの司祭様に司牧して頂きました。

2004年に新築した聖堂は、天井が高く音の響きも良いので、コンサート会場としても利用しています。コンサートに足を運んで頂いて、いつの日か教会に連なつてくださる方が一人でもいらつしやるというなあと願っています。

幼稚園のご父母とは、今年「ふれあいバザー」と称し共に働きました。11月

「わたしもあなたを罪に定めない」
（ヨハネ8：1、11）

神殿の境内で人々を教えるイエスのもとに律法学者やファサイ派の人々が律法違反（姦淫）の現場で捕らえた女性を連れて来ます。石打の刑を行うためイエスを試そうとしてでした。

イエスはかがみ込み、指で地面に何かを書き始められました。彼らがしつこく問いつけるのでイエスは身を起こして「あなたたちの中で罪を犯したことの無い者が、まず、この女に石を投げなさい」と言われた。ある説では彼らがイエスが何を書いておられるかを覗き込むと何と、彼らの不倫相手の名前であったので驚いて一人一人立ち去ったと言われている。

真偽の程はさておいて、クリスマスを迎えようとするこの時に、居住まいをただしてきちんと自分自身を見つめてみるとわかる罪もあります。

〈聖書を開いて〉⑤

「赦し」こそ神の本質

司祭 佐々木 庸

会における司祭の奉仕の務めです。希望される方はご自分の「牧師またはほかの司祭のもとに行き」行うことが出来ます。

十字架に付けられようとする時イエスは「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのかわからないのです。」（ルカ23：34）と兵士だけでなく現代に生きる私達のために祈られました。十字架の死を通して御父のみ心（愛）を示してくださいました。このことよって、際限のない赦し＝真の愛の世界への道が開かれたので

わかった罪は、はつきり神さまに申し上げて、ゆるしを受けましょう。私達は通常、朝夕の礼拝、聖餐式の中で「一般懺悔」を行います。日本聖公会の祈禱書は298、299頁に「個人懺悔」を載せて、前述の方法では心穏やかでない人々に道を開いてお

ります。これは、教会における司祭の奉仕の務めです。希望される方はご自分の「牧師またはほかの司祭のもとに行き」行うことが出来ます。十字架に付けられようとする時イエスは「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのかわからないのです。」（ルカ23：34）と兵士だけでなく現代に生きる私達のために祈られました。十字架の死を通して御父のみ心（愛）を示してくださいました。このことよって、際限のない赦し＝真の愛の世界への道が開かれたので

の集まりで、比較的教会的会内



が安泰に運営出来さえすればというのが常です。気持ちにはもつと外に向けて働きたい…というのが多くの教会がかかえる問題でしょう。わが教会では

「いっしょに歩こう！プロジェクト新地ベース支援」として同地で展開するカフェのために焼き菓子を作り、送ろうということを9月から月2回始めました。外に向けての働きの一歩だと思っています。継続できる努力を祈りをもつて行っていききたいと願っています。

（ガラシャ玉子 蒲池美喜子）

「芝公園の窓から」②

先日英国聖公会ダラム教区のジャスティン・ウエルビー（Justin Welby）主教が第105代のカンタベリー大主教に任命された。着座式は主教トマス・克蘭マー日である来年3月21日に行われる。ウエルビー師は1956年生まれ。石油業界で11年間活躍したが、フランスで生後7か月の娘を交通事故で亡くした後、「召命」を受け会社を辞め聖職になった。「和解仲裁の専門家」として知られている彼は西アフリカの油田事業に関わった経験からアフリカ諸国の葛藤仲裁と和解のために努力してきたという。彼の企業運営経験から危機管理能力と外交術に対する期待が高まっている。英国を始めとする世界聖公会コミュニティが悩んでいる分裂の問題の打開策として「管理者型」の主教が選ばれたと言ってもよいだろう。今日の世界は多様な価値観と思想、考え等によって豊かになった半面、分裂と争いが絶えない。だからこそ次世代のリーダーには和解と仲裁という役割が期待されていると言っても過言ではない。しかし「和解仲裁の専門家」と言えばやはり「イエス・キリスト」を抜きにしては話にならない。私たちの間に宿られた主イエス・キリストこそが「真なる」和解仲裁の専門家である。今年の降誕日は改めて和解仲裁について考えてみたい。

宣教主事・司祭 卓 志雄（タク・ジウン）

主教座聖堂の働き

主教座聖堂主任司祭

笹森 田鶴



各主日)、教会暦の特別な礼拝(降臨節前や被献日前の礼拝、聖週の礼拝) 教区教役者逝去記念聖餐式、新年礼拝等関する準備や実施を通し、東京教区の働きの一環を担っています。

聖公会の特徴は、会議性を尊重しつつ主教制を保持する信仰共同体であることです。会議性の具体的な組織としてすべての教会が代表を送り、教役者も一堂に会して行われる教区会があります。一方で主教制の具体的な執行のために主教座聖堂があり、教区主教の職務を補佐します。そして会議性と主教制のこの両面をバランスよくつなぐ要が、教区主教の存在です。

聖アンデレ主教座聖堂は、「東京教区施行規則」により教区主教の諮問機関として位置づけられています。教区主教の職務遂行を補佐することが主な活動内容です。キリスト教信仰共同体である東京教区に不可欠な礼拝とりわけ教区主教の施行する礼拝が当然ながらその活動の中心です。礼拝は、それぞれの信仰共同体の関心や宣教課題、教会形成の中心が表現され、神と人にとり奉仕する重要な場です。主教座聖堂では、聖職按手式、教区合同堅信式(復活前、昇天後、降臨節第3の

ての職務執行は、司祭団、執事や伝道師の働きの補完が前提条件となります。教区が教会の集合体でキリストの体を示すように、教区主教の職務の一部を任せられて各教会や礼拝堂、関係学校や諸施設などに教区主教より派遣されているすべての聖職の働きによって、教区主教の職務全体が果たされていくのです。聖職たちに分かち合われた職務によって教区主教が存在することは、聖公会の基本的な神学的立場でもあります。



光の礼拝(11月25日)

今後、聖職の減少など、教区状況が大きく変化することが予測されています。どのような状況であろうとも、礼

拝を中心とした信仰共同体として東京教区がこの機に更に成長し続け、一人ひとりが主体的な教区の宣教の担い手として生かされていくことが求められます。そのために聖職信徒の教育の充実を教区主教が重点課題として挙げていることは既知の事です。教育に関わる諸委員会との連携の中で、10年後の東京教区を見据えて主教座聖堂のなすべき務めをひとつひとつ誠実に実行していく所存です。

礼拝実施の他、連続神学

講座A(同じ課題の様々な神学的視点からの学び)、連続神学講座B(聖書、礼拝などの継続的学び)、主教座聖堂の礼拝奉仕者研修。米国聖公会の法規研究。礼拝全般の資料収集・翻訳・研究、祈祷書改正教区モニターとの連携による祈祷書の研究。その他教区主教より委託された諸活動を行います。皆様の祈りによる参加を心よりお願いいたします。

◇ ◇ ◇

※次号は2月10日発行予定

ちょっと聖書、ときどきユーモア(四)

1. 雨漏り

牧師「この教会も、だいぶ痛んできました、礼拝堂に雨漏りがあるようになりました。つきましては信徒のみなさんにご寄付をお願いしたいのですが」

信徒「わかりました。私は傘を20本寄付いたします」

2. あだ名

信徒A「君は、みんなからイザヤと呼ばれているけど、洗礼名なのかい」

信徒B「いや、あだ名だよ」

信徒A「どうして、そんなあだ名がついたんだい」

信徒B「実は、みんなにうちの妻という普段の姿を見られちゃってね」

信徒A「それが、どうしてイザヤと関係あるんだい」

信徒B「どうも、その姿が『苦難のしもべ』に見えたらいいんだ」

3. 山上の説教?

牧師「すみません。今日の“山上の説教”についての説教は要点もまとまらず、ひどい内容でした」

信徒「これが本当の“惨状の説教”ですね」